

公益社団法人 日本都市計画学会

関西支部 2025年度総会

議案書

2025年4月12日

公益社団法人 日本都市計画学会



## 議 事

### 1. 開会の辞

### 2. 支部長挨拶

### 3. 議案

(1) 第1号議案 2024年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部活動報告について

報告事項1 2024年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部決算について

(2) 第2号議案 2025年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部活動方針について

報告事項2 2025年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部予算について

(3) 第3号議案 2025年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部役員選出について

### 4. 閉会の辞

## 目 次

### 【第1号議案資料】2024年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部活動報告について

- 1) 幹事会経過報告について
- 2) 都市計画講演会ならびにシンポジウムの開催について
- 3) 都市計画フィールドワークならびにワークショップの開催について
- 4) 会計および会員管理について
- 5) 広報について
- 6) 都市計画研究会活動支援について
- 7) 国際・交流活動について
- 8) 関西まちづくり賞について
- 9) 研究発表会の開催について
- 10) 新Webサイト等の活用による情報発信について

### 【報告事項1】2024年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部決算について（後日掲載）

### 【第2号議案資料】2025年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部活動方針について

- 1) 主な事業の日程概要について
- 2) 新たな計画課題にむけて多世代・多分野の協働と人材育成につながる支部活動について
- 3) 都市計画講演会及びシンポジウム・都市計画フィールドワークの開催
- 4) 広報について
- 5) 都市計画研究会活動支援について
- 6) 国際・交流活動の推進
- 7) 関西まちづくり賞について
- 8) 研究発表会について

### 【報告事項2】2025年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部予算について

### 【第3号議案資料】2025年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部役員選出について

- 【資料 1】 公益社団法人日本都市計画学会関西支部規程
- 【資料 2】 公益社団法人日本都市計画学会関西支部運営規則
- 【資料 3】 関西支部会員数
- 【資料 4】 関西支部予算（予算枠）の推移
- 【資料 5】 研究支援「都市計画研究会」の募集 応募要領（2025 年度）
- 【資料 6】 関西まちづくり賞表彰実績
- 【資料 7】 「第 23 回関西支部研究発表会」開催案内および発表の募集
- 【資料 8】 関西支部役員および委員（2025 年 3 月 1 日現在）

【第1号議案資料】

2024年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部活動報告について

1) 幹事会経過報告について

開催日時		主な議事及び決定事項
第1回 2024. 5. 16	1. 2. 3. 4. 5.	委員名簿の確定 WEB更新マニュアルについての報告 関西まちづくり賞のスケジュール・募集要綱の決定 企画委員会、国際・交流委員会、編集・広報委員会からの活動計画の報告 研究発表会の申し込み状況の報告
第2回 2024. 7. 19	1. 2. 3. 4.	支部長より本部理事会の報告 旅費規定見直しについての確認 関西まちづくり賞委員会、企画委員会、国際・交流委員会、編集・広報委員会からの活動報告と今後の予定の確認 関西支部研究発表会の開催内容の確認
第3回 2024. 10. 22	1. 2. 3. 4. 5. 6.	支部長より本部理事会の報告 2025年度事業計画、予算の作業スケジュール周知等 2024年度総会の開催についての方針決定 企画委員会、編集・広報委員会、国際・交流委員会からの活動報告と今後の予定の確認 関西まちづくり賞への応募状況の確認 関西支部研究発表会の開催結果報告
第4回 2024. 12. 18	1. 2. 3. 4. 5. 6.	支部長より本部理事会関係の報告 2024年度執行状況、2025年度事業計画、予算の確認 2025年度の委員会体制の確認 企画委員会、編集・広報委員会、国際・交流委員会からの活動報告と今後の予定の確認 関西まちづくり賞の表彰対象の決定 2024年度関西支部研究発表会の開催日の決定
第5回 2025. 1. 27	1. 2. 3. 4. 5. 6.	支部長より本部理事会の報告 2025年度の委員会体制の確認 2024年度執行状況、2025年度事業計画、予算の確認 企画委員会、編集・広報委員会、国際・交流委員会からの活動報告と今後の予定の確認 関西まちづくり賞の授賞式の確認 関西支部研究発表会の方針の確認
第6回 2025. 3. 4	1. 2. 3. 4. 5.	2024年度決算及び2025年度予算の状況報告 2025年度の委員会体制の確認 2025年度総会の開催の調整状況報告と議案書の確認 関西支部研究発表会の方針決定 活動支援する都市計画研究会の公募の方針決定

参考：【資料1・2】

## 2) 都市計画講演会ならびにシンポジウムの開催

### <講演会>

テ ー マ：都市計画の視点で考えるオーバーツーリズム

日 時：2025年2月27日（木）19:00～20:30

場 所：オンライン開催（株式会社地域計画建築研究所大阪事務所から配信）

内 容：コロナ禍の収束や円安の影響によりインバウンドを中心とした観光需要が急拡大するとともに、様々な観光地で「オーバーツーリズム」が問題となっている。観光需要の増加は、都市の本来の魅力、地域の生活の質、コミュニティの形を変えつつあり、応急処置的な対策でなく計画的な対応が求められる。京都や海外の事例を参照しつつ、地域の持続可能性を大切にした観光のあり方や必要な施策について考える講演会を開催した。

講 師：阿部大輔氏（龍谷大学政策学部教授）

参 加 者：87人

### <シンポジウム>

テ ー マ：震災復興の継承

ー阪神・淡路大震災から30年 能登半島地震等の震災復興に経験は生かされているかー

日 時：2025年3月22日（土）13:30～16:30

場 所：兵庫県中央労働センター 大ホール

内 容：阪神・淡路大震災から2025年1月で30年を迎えた。この間、東日本大震災、熊本地震、そして2024年に発災した能登半島地震など日本は数多くの地震災害に見舞われた。震災から復興する過程において得た教訓は検証され、転化しながら継承されることが求められている。南海トラフ沖地震が目前に迫る中、阪神・淡路大震災以降に発災した巨大地震の復興を俯瞰し、震災復興の教訓の変遷を辿りながら未来へ継承するための在り方を議論するシンポジウムを開催した。

基調講演：「阪神・淡路大震災からの復興から得た教訓」

室崎益輝氏（神戸大学名誉教授）

話題提供：「東日本大震災等の現場では教訓がどう引き継がれたのか」

姥浦道生氏（東北大学大学院工学研究科・工学部教授）

モデレーター：室崎益輝氏

パネリスト：姥浦道生氏、近藤民代氏（神戸大学教授）、澤田雅浩氏（兵庫県立大学）、野崎隆一氏（神戸まちづくり研究所）、畑文隆氏（元西宮市）

参 加 者：●●人

### 3) 都市計画フィールドワークならびにワークショップの開催

#### <フィールドワーク①>

テ ー マ：建替えによらない団地再生方針を決定した淀川パークハウスの事例等から探る取  
り組みの進め方

日 時：2024年7月13日（土）14：00～17：00

場 所：淀川パークハウス（大阪市旭区）

内 容：全国的に高経年マンションが増加し、建替え等の合意形成が困難になるなか、維持管理の適正化や再生に向けた取り組みが強化され、マンションに関する法律の制定や改正が行われるなど、高経年マンションの再生にとっては追い風が吹いている。一方、現場では法律が制定・改正されたことで、安易に建替えできる、建替えこそが最善の策だという誤認、誤解によって混乱が生じているという現実もある。995戸の団地で「修繕・改修による団地再生方針」を決定した淀川パークハウスの事例紹介や建替えマンションやUR賃貸住宅の再生事例などを説明いただくとともに、淀川パークハウスの視察を行った。

講 演：パークすまいるプロジェクトの紹介  
北川拓哉氏（淀川パークハウス管理組合）  
UR賃貸住宅の再生事例紹介  
田邊豪二氏（UR都市機構西日本支社）  
建替えマンションの事例紹介  
根津昌彦氏（合資会社ゼンクリエイト）

参加者：32名

#### <フィールドワーク②>

テ ー マ：なんば広場 民間発意による駅前ロータリーの広場化

日 時：2024年12月9日（月）15：00～17：30

場 所：河原センタービル、なんば駅前（大阪市中央区）

内 容：なんば広場は駅前や周辺の車道等の道路空間を再編してできた人のための広場である。2008年より地域発意で検討がスタートし、2023年11月に広場部分が先行オープンした。都会なかの中心地で広場空間をどのように生み出したのかについて、なんば広場の実現に向けた構想、計画設計、交通再編、マネジメントに関わって来られた方を迎え、プロジェクト紹介と現地視察を行うフィールドワークを開催した。

講 演：なんば広場空間再編プロジェクトの経緯・概要  
泉英明氏（有限会社ハートビートプラン）  
プロジェクト推進に関する取組



福井良佑氏（南海電気鉄道株式会社）

自動車交通の再編と広場設計

田ノ畑聡史氏（中央復建コンサルタンツ株式会社）

参加者：33名

### <ワークショップ>

テーマ：イノベーション創出拠点 中百舌鳥駅周辺活性化ワークショップ  
～多様なひとの交流と活動が生まれる空間活用提案～

日時：1日目：2024年7月21日（日）13：30～17：00

2日目：2024年8月31日（土）14：00～17：00

場所：1日目：S-Cube（さかい新事業創造センター）、大阪市高速電気軌道株式会社（Osaka Metro）地下検車場及びその周辺

2日目：オンライン開催（台風10号による緊急措置）

内容：中百舌鳥駅周辺エリアは、南海電鉄・Osaka Metro・泉北高速鉄道の路線が乗り入れる公共交通のアクセス性が高いエリアであり、府道大阪高石線が縦断するなど、大阪都心と大阪南部をつなぐ重要な交通結節点です。更に、産業支援機関が集積する中百舌鳥北部エリアや、フルラインアップの学問領域を持つ大阪公立大学の中百舌鳥キャンパスも立地しており、イノベーション創出につながる多様なひとが集うポテンシャルを有している。堺市では中百舌鳥駅周辺を「イノベーション創出拠点」と位置付け、その実現のため、令和6年5月に中百舌鳥駅前広場や中百舌鳥北部エリア等の活性化の方向を示す「中百舌鳥駅周辺活性化基本方針」が策定され、現在、中百舌鳥駅前広場については、ひと中心の広場への再編が検討されている。一方、中百舌鳥北部エリアにおいては、堺商工会議所、堺市産業振興センター、さかい新事業創造センターが立地しているものの、周辺は駐車場や調整池などの低未利用地が多く、それらの土地の有効活用が求められている。そこで今回は中百舌鳥北部エリアにおける、「多様なひとが新しいことに出会い、チャレンジできる拠点の形成」に向けて、低未利用地活用のコンセプトや導入機能などについて学生目線での提案を行うワークショップを開催した。

参加者：23人（全て学生）

## 4) 会計および会員管理について

2025年度予算案の作成、ならびに2024年度の決算書の作成を行った。

## 5) 広報について

### 1. 支部だよりの発行

関西支部だより+（ウェブ版）No. 38 を WEB 発行した。特集のテーマは「都市経営とまちづくり」「公民連携まちづくり最前線」とし、インタビューや対談記事の公開や、論考の執筆依頼を行った。

#### <インタビュー>

- ・住宅地域における地域主導の公園活用  
：田尻奈緒子（GRATIA）、宮崎翔、奥井絢子、植村政也（奈良市）
- ・京都市崇仁地区のまちづくり～芸術による包摂と地域の文脈の継承～  
：淀野実（前世界人権問題研究センター事務局長）、田中照人（京都市立芸術大学顧問）、堀村清一郎（京都市）
- ・地域とともに持続的な駅まちづくり～さこすて取組～  
：武部俊寛（JR西日本コンサルタンツ株式会社）

#### <論考>

- ・都市課題の解決に資する農園とその整備方法  
：新保奈穂美（兵庫県立大学／淡路景観園芸学校 准教授）
- ・気候変動下における緑地環境デザイン戦略  
：松尾薫（大阪公立大学 准教授）

#### <対談 プロジェクトトーキング>

- ・そのまち「らしさ」をなすまちなみづくり（京都市田の字地区）  
：阿部俊彦（立命館大学理工学部 准教授）、阿久井康平（大阪公立大学 准教授）、白石将生（昭和株式会社）

## 2. 本部学会誌「都市計画」に関する企画編集

本部学会誌「都市計画」においては、関西支部の活動報告、都市計画情報の掲載ページ（支部 Topics）に関する企画編集と執筆依頼を行った。

- ・370号「茨木市文化・子育て複合施設『おにクル』の開館」  
：向田明弘、杉浦啓太（茨木市）
- ・371号「文化芸術都市・京都の新たなシンボルゾーンの創生」  
：京都市
- ・372号「まちの当事者を増やすアクティビティファーストのまちづくり」  
：植村政也（奈良市）
- ・373号「「さこすて<sup>®</sup>」地域とともに持続的な駅まちづくりを進める取組」  
：武部俊寛（JR西日本コンサルタンツ株式会社）

## 6) 都市計画研究会活動支援について

### 1. 支援を行った都市計画研究会の活動状況等報告会の実施

2024 年度総会に併せて、研究支援結果発表会（最終報告 1 件、中間報告 3 件）を、対面とオンラインを併用するハイブリッド形式で開催した。また関西支部ウェブサイトにて、2023 年度研究助成（最終報告 1 件、中間報告 3 件）の報告を行った。

### 2. 都市計画研究会への活動支援の実施

下記の 4 件の都市計画研究会に対して助成を行った。

新規(1)：繊維問屋街研究体（代表者 石樽 督和）

継続(1)：人口減少時代における計画的住宅地と農山漁村の新たな連携研究会  
(代表者 青木 嵩)

継続(2)：エリアビジョン検討のためのまちづくりゲーム「紡ぐ・ビジョン・MATCH  
-まちの未来をソウゾウする-」の展開を考える研究会（代表者 石原 凌河）

継続(3)：室生の「生き抜いた景観」の再発見・活用研究会（代表者 高木 悠里）

## 7) 国際・交流活動について

### 1. 委員会の開催記録

2024 年 6 月 19 日（水）、9 月 5 日（木）、10 月 28 日（月）、1 月 8 日（水）、  
2025 年 2 月 12 日（水）

2024 年度の活動内容を検討し、留学生、都市計画・まちづくりを仕事とする社会人、都市計画・まちづくり分野への就職を考える学生に対して、対面による学生向け交流イベント 1 件と国際都市計画セミナー 1 件を開催することを決定した。なお、2023 年度に実施した海外都市計画交流会は大変好評であったが、本年度は十分な準備期間やリソースを確保できないため、不実施とすることを決定した。

### 2. 活動内容

(1) 海外都市計画交流会：

不実施。

(2) 国際都市計画セミナー：

「縮小先進地方旧東ドイツの現況報告（ライプツィヒ、ベルリンを中心に）」

日 時：2025年3月10日(月)18：30～20：00

場 所：大阪ガスネットワーク 都市魅力研究室

大阪市北区大深町3番 1号グランフロント大阪（北館）

参加者：16名（報告者1名、委員会関係者7名含む）

内 容：わが国でも大きな社会的課題である人口減少に焦点を当てながら、ドイツの人口動態や移民政策、都市再開発に伴う社会的な変化の現状を報告頂いた。特に、旧東ドイツのライプツィヒでの人口減少局面から反転し、衰退地域の再生によってジェントリフィケーションが進む地域の現状について、あるいは、ベルリンの昨今の都市事情について、参加者も交えた質疑応答と活発な意見交換を実施した。

(3) 学生向け交流イベント：

「グラングリーン大阪見学会」

日 時：2024年11月18日（月）15：00～17：00

会 場：グランフロント大阪

参加者：35名（学生28名、一般・委員会関係者7名含む）

内 容：「グラングリーン大阪」は、2024年9月に開業したうめきた2期地区で進められている、公民連携による約45,000㎡の都市公園を中心とした再開発プロジェクトである。豊かな緑と多彩なアクティビティが広がり、訪れる人々が前向きな気持ちになれる空間づくりを目指しており、「まちでの出会いが、様々な価値を創造し、持続的にみんなと社会全体を良くしていく」というプロジェクト理念のもと、企業や研究機関と協力し、QOL向上や自己実現の場を提供し、サステナビリティ推進やイノベーション創出に取り組んでいる。そこで本見学会では、プロジェクトマネジメントのご担当者に概要のご説明を頂きながら、自然と都市が融合する都市開発の背景や最新の取り組みを学ぶとともに、未来の都市づくりの現場を参加者全員で見学することで、学生交流を実施した。

## 8) 関西まちづくり賞について

### 1. 委員会等の開催記録

- ・ 第1回委員会(2024年5月15日) 2024年度募集要領の検討等  
募集期間(2024年6月5日～8月26日)
- ・ 第2回委員会(2024年10月1日) 選考方法の検討、現地調査・質問事項の検討
- ・ 現地調査(2024年11月11日) 応募案件の現地調査(1件)
- ・ 第3回委員会(2024年12月5日) 現地調査の総括、受賞対象者の選考
- ・ 第4回委員会(2025年3月12日) 表彰式、プレゼンテーションの段取り

## 2. 2024 年度関西まちづくり賞 表彰

### ・ 関西まちづくり賞

成果・実績の名称：『さのみなと団地 再生プロジェクト』 受賞者：株式会社情報都市、株式会社ひとは

## 9) 研究発表会の開催について

2024 年 7 月 27 日（土）、第 22 回研究発表会を開催した。大学・行政・企業の若手研究者を中心とした 47 編の研究発表があり、116 名の参加者を得て活発な質疑・討論が行われた。

発表会で選定している奨励賞には、以下の 8 名の方が選ばれた。

- 1) 関根仁美さん（大阪大学大学院工学研究科）

「地域に対する主観的評価と生活習慣との関係」

- 2) 石黒壮真さん（龍谷大学大学院政策学研究科）

「欧州における近現代建造物の保全に向けた遺産登録の取り組みに関する研究」

- 3) 朴延さん（公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 研究戦略センター）

「e スポーツ施設における都市計画の適用と公共性の可能性－韓国と日本の事例を通して－」

- 4) 小藤由瞳さん（立命館大学大学院理工学研究科）

「バッファゾーンにおける歴史的町並みの景観規制に関する研究－元興寺周辺を対象として－」

- 5) 久保田夏樹さん（龍谷大学大学院政策学研究科）

「都市計画分野におけるジェンダー平等に向けた取り組みの現状と課題に関する考察－市町村マスタープランでの記載内容を中心に－」

- 6) 白石悠さん（大阪大学工学部）

「配慮意識に着目した公共空間における芸人の練習活動の特徴」

- 7) 長尾元輝さん（神戸大学大学院工学研究科）

「住居喪失危機から生活再建に至る過程に対応した支援プログラムの実態と課題」

- 8) 池上将史さん（元龍谷大学）

「鉄道駅の維持管理手法に対する住民評価に関する研究－JR 桜井線畷傍駅を事例に－」

## 10) 新 Web サイト等の活用による情報発信について

支部活動の情報発信の魅力化とホームページ運営の効率化、運営コストの適正化を図るために、2022 年度に全面見直しを行った web サイトと新たに構築したメール配信システムを活用し、会員への適時・的確な情報発信に努めた。

**【報告事項 1】**

**2024 年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部決算について**

(後日掲載)

## 【第2号議案資料】

### 2025年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部活動方針（案）

#### 1) 主な事業の日程概要

##### 2025年度活動予定表

4～6月	○関西支部総会（4月12日） ○研究支援の募集・締切（総） ○研究発表の募集・締切（研）	○都市計画フィールドワーク （第1回）（企）
7～9月	○研究発表会の開催（研） ○海外都市計画交流会（国） ○関西まちづくり賞募集・締切 （ま）	○都市計画講演会（企）
10～12月	○学生のための仕事場訪問（国） ○国際都市計画セミナー（国） ○関西まちづくり賞現地調査（ま）	○都市計画フィールドワーク （第2回）（企） ○都市計画ワークショップ（企） ○支部だよりの発行（編）
1～3月	○関西まちづくり賞選考（ま） ○支部だよりの発行（編）	○都市計画シンポジウム（企）

委員会名称：（総）総務委員会、（企）企画委員会、（編）編集・広報委員会、  
（ま）関西まちづくり賞委員会、（研）研究発表委員会、（国）国際・交流委員会

#### 2) 新たな計画課題にむけて多世代・多分野の協働と人材育成につながる支部活動について

支部活動は、会員、賛助会員へのサービスのみならず、多様な地域課題に対して専門的な貢献を果たすために、さらなる活動の活性化、次世代の裾野の拡大を図る必要がある。そのため、以下の実現に努める。

- (1) 関西支部のこれまでの蓄積と成果を踏まえ、出身とする専門分野や関西における主な活動の場の相違、あるいは産官学といった垣根を越えた業際・学際的な人的ネットワークの充実および研究・実践における協働を図る。特に、これからの関西の都市計画分野を支える人材の発掘と育成支援を積極的に行う。
- (2) 支部活動の広報・連絡活動のインフラとしてのビジュアルを強化した新 Web システムのより効果的な運用を通じて、会員はもとより全国に向け関西における都市計画・まちづくりの取り組みを積極的に発信していく。
- (3) 都市計画分野の継続教育（CPD 活動）に資するプログラム（都市計画講演会及びシンポジウム、都市計画フィールドワーク、研究発表会等）をさらに充実して実施する。
- (4) 支部活動の基本である各委員会の運営に関し、若手・中堅層を中心に広く会員の参加を得て活性化を図る。そのために委員公募を積極的に検討する。

- (5) 支部会員数の減少傾向に鑑み、オンラインの活用等も含め関西広く社会ニーズに対応した行事の企画・運営や会員サービスを充実し、学生ならびに自治体・コンサルタント等の都市計画・まちづくり担当者の当学会への関心を高めて、会員増強につなげる。
- (6) 関連する学協会・業界団体等との関係を深め、イベントの共催・後援などを通じて多様な人材の交流と学習の場を提供する。それらの活動から実践と学術的知見をつなぎ、都市まちづくり分野での産官学のプラットフォームを形成する。

### 3) 都市計画講演会及びシンポジウム・都市計画フィールドワーク等の開催

人口減少下での持続可能な都市・地域づくりが求められるなか、都市・地域計画に求められる課題や役割が変化している。社会経済の変動を背景に計画分野の新たな動向をとらえ、多様な分野の人が集まり多角的に考える機会を提供する都市計画講演会・シンポジウムならびにフィールドワークを企画・開催する。

これまでも先進的に独自の発想にもとづき展開してきた関西の都市づくりについて知見を深め、地域の環境形成に寄与する情報交流の場となるよう、計画技術の継承発展にとどまらず、計画に関わるテーマについて社会的・経済的・文化的観点から広く取り上げていく。

都市づくりの担い手と出会う、現場で意見交換するなど、参加することの魅力を高める工夫と、会員の関心を広げていくことをめざすとともに、昨年度に引き続き、今年度も学生等幅広い方々の参加を求め、学会への関心を高めるようなフィールドワークやワークショップを開催する。

### 4) 広報について

「日本都市計画学会関西支部だより」の WEB 発行を通じて、関西を中心とする都市計画・まちづくりに関する論説、話題、事業の紹介等を行う。2024 年度の活動を引き継ぎ、編集・広報委員による取材企画や会員による論考の発表企画、各支部の活動紹介などを進め、広報活動のさらなる充実を図る。

また、本部学会誌「都市計画」に毎号掲載される支部トピックスの企画編集を行い、関西のまちづくりや都市計画に関する情報を全国に発信する。

### 5) 都市計画研究会活動支援について

2024 年度から継続する 1 件の都市計画研究会への活動支援に加えて、「都市計画研究会活動支援に関する要綱」に従い、新規 3 件の支援を行う。

参考：【資料 5】



## 6) 国際・交流活動の推進

都市計画に関心を持つ学生と社会人とが交流し情報交換を持つ場として「都市計画・アーバンデザインの仕事をたずねる」あるいは「関西のプロジェクト見学会」を実施する。また、近年、海外の都市計画の実務経験を有する人が増えており、その方々の経験を共有する場として、まちづくり・都市計画実務者向けの「国際都市計画セミナー」を開催する。さらに、新型コロナの影響で停滞していた国際交流の再活性化を図るため、海外諸都市にて現地開催する「海外都市計画交流会」についても、具体的に検討・実施することを目指す。

以上により、都市計画専門家、学生及び留学生、社会人等との人的ネットワーク形成を推進し、新規会員の獲得へつなげる。

## 7) 関西まちづくり賞について

関西で実施された地域まちづくり活動や空間整備又は制度づくりや計画策定で、優れた成果・実績・効果があるものについて、広く募集・推薦を求め、関西まちづくり賞の表彰を行う。

そのため、関西まちづくり賞の趣旨をわかりやすく発信し、できるだけ多くの応募・推薦を集める努力を行う。

賞の選考に当たっては、応募者ヒアリングや現地調査を実施し、十分に議論する等、公正な審査を行う。選考された地域まちづくり活動等は、関西における優れた成果・実績・効果であるとして表彰するとともに、その内容や評価したポイント等を情報発信する。

参考【資料6】

## 8) 研究発表会について

2025年度第23回関西支部研究発表会を、7月26日（土）大阪公立大学文化交流センター（大阪駅前第2ビル6階）にて開催する。投稿および発表会への参加については、大学等の教育研究機関関係者だけではなく、広く、行政関係者・民間企業・コンサルタント関係者等、都市計画の第一線で活躍されている方々の参加を歓迎する。

なお、今年度の投稿申込締切は、5月21日（水）、原稿提出締切は6月16日（月）としている。応募方法や原稿執筆要領等の詳細は、支部ホームページに掲載している。

参考：【資料7】

【報告事項2】

2025 年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部予算について  
 令和7年度日本都市計画学会関西支部 収支予算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位:円)

大科目	中科目	令和7年度 予算額(a)	令和6年度 予算額(b)	差異(a)-(b)	備考
<b>I. 事業活動収支の部</b>					
1. 事業活動収入					
① 事業収入		210,000	180,000	30,000	
	講習会収入	20,000	20,000	0	
	発表会参加費収入	190,000	160,000	30,000	
② 寄付金収入	寄付金収入	0	0	0	
③ 雑収入	雑収入	0	0	0	
<b>事業活動収入計</b>		<b>210,000</b>	<b>180,000</b>	<b>30,000</b>	
2. 事業活動支出					
① 事業費支出		2,127,501	1,994,000	119,501	
	臨時雇賃金支出	120,000	120,000	0	
	会議費支出	0	0	0	
	旅費交通費支出	244,000	234,000	10,000	
	通信運搬費支出	56,000	56,000	0	
	消耗品費支出	16,000	12,000	4,000	
	印刷製本費支出	4,000	8,000	△ 4,000	
	コンピュータ費支出	55,000	80,000	△ 25,000	
	賃借料支出	109,500	101,500	8,000	
	保険料	14,000	14,000	0	
	諸謝金支出	398,001	356,750	384,001	
	助成金支出	380,000	380,000	23,250	
	委託費支出	685,000	589,750	305,000	
	表彰費支出	46,000	42,000	△ 543,750	
	雑費支出	0	0	△ 42,000	
② 管理費支出		50,499	55,000	△ 4,501	
	旅費交通費支出	5,000	5,000	0	
	通信運搬費支出	5,000	5,000	0	
	消耗品費支出	499	5,000	△ 4,501	
	印刷製本費支出	10,000	10,000	0	
	賃借料支出	30,000	30,000	0	
<b>事業活動支出計</b>		<b>2,178,000</b>	<b>2,049,000</b>	<b>115,000</b>	
<b>事業活動収支差額</b>		<b>△ 1,968,000</b>	<b>△ 1,869,000</b>	<b>△ 85,000</b>	
3. 特定費用準備支出					
	支部40周年記念事業	100,000	100,000	0	
<b>総支出計</b>		<b>2,278,000</b>	<b>2,149,000</b>	<b>115,000</b>	
<b>総収支差額</b>		<b>△ 2,068,000</b>	<b>△ 1,969,000</b>	<b>△ 85,000</b>	

【第3号議案資料】

2025年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部役員選出について

役職	担当	所属
支部長	嘉名 光市	大阪公立大学
副支部長	岡井 有佳	立命館大学
〃	加我 宏之	大阪公立大学
〃	田中 利光	阪神国際港湾(株)
総務委員長	西江 誠	大阪都市計画局（大阪市）
〃 副委員長（総務担当）	紅谷 昇平	兵庫県立大学
〃 副委員長（会計担当）	鷲尾 真弓	神戸市
関西まちづくり賞委員長	阿部 俊彦	立命館大学
〃 副委員長	臼田 利之	大阪経済大学
〃 副委員長	佐藤 友彦	京都市
企画委員長	熊谷 樹一郎	摂南大学
〃 副委員長	森 喜彦	兵庫県
〃 副委員長	山北 知	ランドブレイン(株)
国際・交流委員長	赤澤 宏樹	兵庫県立大学
〃 副委員長	石原 凌河	龍谷大学
編集・広報委員長	阿部 大輔	龍谷大学
〃 副委員長	杉浦 啓太	茨木市
研究発表委員長	清水 裕子	畿央大学
〃 副委員長	中野 光治	(株)地域未来研究所
〃 副委員長	阿久井 康平	大阪公立大学